

コンバーティング総合情報誌

コンバーテック

特集 エレクトロニクスとコンバーティング

2019
Vol.555
No.47

6

ISSN 0911-2316  加工技術研究会

 SHINKO

粉塵でお困りではありませんか

新製品

超音波クリーナー

スリッター刃用 SL-1 型



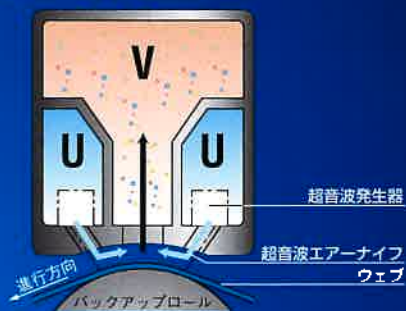
スリット時に発生する粉塵を超音波エアで吸引・除去

ウェブ用 UVU-W-HE 型

1.6 μ mの塵を
100%除去可能!

高効率・省エネタイプ
消費電力従来比
50~60%

*フラットパネルタイプもあります



★御推奨!! 超音波ドライクリーナー(UVU-W, VUV-W)によるフィルム全幅洗浄後に取り付ける事で、より相乗効果が期待できます

防爆型 直流式静電気除去装置 型式 DC-2

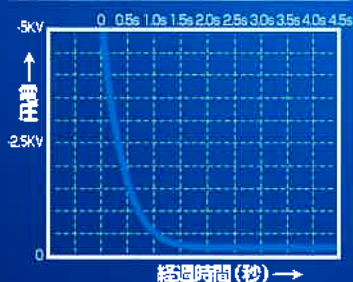
除電効果が
格段に向上!

塗布ムラの防止

直流式のため除電性能が
非常に優れています

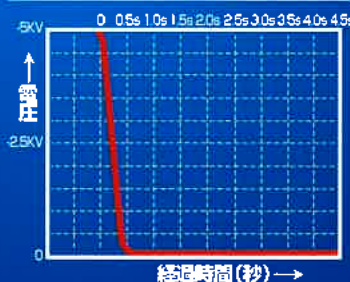
直流式のため高圧ケーブルの
焼損のおそれがありません

AC(交流)方式(他社)
交流5→0kv 5秒以上



経過時間(秒)→

DC(直流)方式(直流)
直流5→0kv 約0.5秒



経過時間(秒)→

厚生労働省産業安全研究所
安検認可

第1434号
第56749号
株式会社
伸興



除電機 DC-2

本社クリーンルームにて立会テストを実施しています。テストサンプルをご持参のうえ、その効果をぜひお確かめください。

省力化のコンサルタント

 株式会社 伸興

本社 〒551-0021 大阪市大正区南豊加島5丁目8-84

営業部 TEL. 06-6552-3171 FAX. 06-6552-3371

工場 TEL. 06-6553-1062 FAX. 06-6554-4074

http://www.shinko-jp.biz/ E-mail: kanri@shinko-jp.biz

全国ネットのサービス網

- 東京支店 TEL. 03-3474-3961
- 北関東営業所 TEL. 048-971-5411
- 富士営業所 TEL. 0545-51-7981
- 名古屋支店 TEL. 052-794-2820
- 京滋営業所 TEL. 075-591-7535
- 四国営業所 TEL. 0877-25-3655

海外ネットワーク

- 韓国 伸興TECH TEL. +82-31-261-5677
DONGIL TECHNO TRADING TEL. +82-2-508-0962
SUNGILIM TECH TEL. +82-2-586-0325
- 中国 BEIJING WEBCON SCIENCE & TECHNOLOGY DEVELOPMENT CO., LTD.
TEL. +86-10-8722-0127
- 台湾 伸興TAIWAN E-mail: taiwan@shinko-jp.biz
- 欧州 SHINKO Europe AG TEL. +41-31-917-1044

書くもの、包むものを超えた可能性を追う 素材、製品、加工技術からみる紙の潜在力

紙加工技術展 2019

「紙だからこそ、できることは何か」。紙に付加価値を与える加工技術、ユニークな紙製品などをテーマにした紙加工技術展2019が4月、大阪産業創造館で開催された。海洋プラスチックをはじめ、プラスチックの廃棄問題がクローズアップされる中、その代替材料として、「紙」に対する関心は高い。会場には48社が出展し、「書くもの、包むもの」という従来の役割を超えた、新たな紙の可能性をアピールしていた。出展ブースの中から、コンバーティングに活用できそうな製品、紙ならではの加工性、機能性を訴求したアイテムに着目してレポートする。 (高橋綾子)

表面平滑性の高い「タックハイコアー」と紙製品向けの「タックコアー」の2グレードを出品。また、これ以外の同社の紙管にも、粘着加工は可能だという。

■紙管表面に水をつけると粘着性発現、両面テープ不要、段差痕対策に

日本紙管工業(株)

大阪市旭区大宮 1-11-3

<http://n-shikan.co.jp/>

日本紙管工業は、1946年創業の産業用紙管メーカーで、フィルム用や製紙用、金属箔用といった各種紙管や包装用保護材などを手掛けている。グループ会社を含め全国各拠点で事業を展開するほか、97年にはドイツの大手紙管メーカーパウル社と業務提携し、製造技術の共同開発などに取り組んでいる。

出展ブースでは、紙管表面に水をつけると粘着性が発現する「タックハイコアー」を出品していた。従来、フィルムなどの巻き始めでは、両面テープを使っ

て紙管に固定していたが、両面テープやフィルムそのものの厚みによって、フィルムに段差痕が残ることが課題だった。段差痕がフィル

ムに転写されると大幅な製品ロスにつながるため、この段差を少しでも低減する手法が求められている。そうした中、同社は、両面テープを用いずにフィルムを紙管に固定する手法を検討。紙管表面に樹脂をコーティングし、水に濡らして粘着性を発現させる手法を開発し、テープによる段差の解消を可能にした。

使い方としては、作業現場に水の入った霧吹きなどを置いておき、巻き始めにシュッシュッと濡らすようなイメージだ。担当者は、「紙やフィルムの固定が可能ですが、水をつける面積を増やせば粘着力が上がるため、よりしっかりと固定することができます。両面テープを剥がす手間が省け、ゴミの削減にもつながります」とPRする。

展示ブースでは、フィルム製品向けの



タックハイコアー

て紙管に固定していたが、両面テープやフィルムそのものの厚みによって、フィルムに段差痕が残ることが課題だった。段差痕がフィル



タックコアー。水で濡らした部分に粘着性が発現